

平成 20 年度科学研究費補助金実績報告書（研究実績報告書）

1. 機関番号 3 2 6 9 2 2. 研究機関名 東京工科大学
3. 研究種目名 若手研究(B) 4. 研究期間 平成 20 年度 ~ 平成 22 年度
5. 課題番号 2 0 7 3 0 3 5 6
6. 研究課題名 サブカルチャー集団による地域社会への参加に関する民族誌的研究

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
4 0 3 2 9 1 7 3	オオヤマ, マサヒコ 大山, 昌彦	メディア学部	講師

8. 研究分担者(所属研究機関名については、研究代表者の所属研究機関と異なる場合のみ記入すること。)

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
	フリガナ		
	フリガナ		
	フリガナ		
	フリガナ		
	フリガナ		

9. 研究実績の概要(国立情報学研究所でデータベース化するため、600字~800字で記入。図、グラフ等は記載しないこと。)

下欄には、当該年度に実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、交付申請書に記載した「研究の目的」、「研究実施計画」に照らし、600字~800字で、できるだけ分かりやすく記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。

本研究の目的は、サブカルチャー集団の地域社会への参加の様態を、茨城県中央部で活動するロックンロールと呼ばれるサブカルチャー的活動を行う集団を対象に、活動場所の獲得そしてその維持に関して地域社会との交渉を通じた社会参加へのプロセス、および活動を通じた下位文化的なネットワークの形成、そしてそれ以外の社会生活との関連を明らかにすることである。本研究では、主にフィールドワークを中心とした現地調査、および新聞・雑誌のテキスト分析を併用し、データの収集と分析を行うものである。

平成20年度は、ロックンロールの歴史に関する文献調査と、茨城県中央部のロックンロール・チームへのフィールドワークを実施した。文献調査は主に1970年代後半から80年代にかけての雑誌および新聞を対象に行った。調査において、ローラーは1980年代初頭の「少年非行第三の波」期には、当時の不良少年の呼称である「ツッパリ」と同一視されながらその「ツッパリ」の下位文化の流行にともない80年代前半に全国に拡大し、90年代初頭には衰退した様子が明らかとなった。

フィールドワークでは、対象地域においてロックンロール・チームが増加したこと、そしてチーム同士の連携が深まっていることが確認された。80年代のブーム期以降、この地域ではロックンロールが主に暴走族を中心としたこの地域に居住する10代後半の若者の間で受け継がれてきたが、現在の担い手は10代から40代までと年齢層が多様化しつつあり、世代と地域を超えたネットワークが形成されていることが明らかになった。さらに、ロックンロールの広がりには、ロックンロール・チームだけでなく、ライブハウスでのイベントを企画するイベントアーヤバンドなど関連する他分野にも拡大し、ロックンロールを媒介としたより多様な集団の連合体が県内全域を対象として、結成されることとなった。

成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A4 判縦長横書 1 枚)を添付すること。

10. キーワード

- (1) サブカルチャー集団 (2) 社会参加 (3) 地域社会
- (4) 公共空間 (5) 文化関係資本 (6)
- (7) (8) (裏面に続く)

11.研究発表（平成20年度の研究成果）

〔雑誌論文〕 計（0）件

著者名	論文標題			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
			...	

著者名	論文標題			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
			...	

著者名	論文標題			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
			...	

〔学会発表〕 計（0）件

発表者名	発表標題		
学会等名	発表年月日	発表場所	

〔図書〕 計（0）件

著者名	出版社		
書名	発行年	総ページ数	
	...		

12. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

〔出願〕 計（0）件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別

〔取得〕 計（0）件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別

13. 備考

研究者又は所属研究機関が作成した研究内容又は研究成果に関するwebページがある場合は、URLを記載すること。

--